

日本ビタミン学会第72回大会のお知らせ

『Vitamin 100年 ― 次の世紀へ ― 』

会 期：2020(令和2)年6月19日(金)～20日(土)

会 場：ウインクあいち(愛知県産業労働センター)

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

大会委員長：吉村 徹(名古屋大学大学院生命農学研究科 教授)

大会実行委員：池田 彩子, 伊藤 智和, 太田 好次, 小林 美里, 邊見 久, 堀尾 文彦,
吉村 和也

大会事務局：名古屋大学大学院生命農学研究科(担当：吉村 徹・邊見 久)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

E-mail: 72vitamin2020@gmail.com

[主要プログラム]

《若手シンポジウム》

「ビタミン・バイオフィクター研究の新潮流」

(演者 50 音順)

伊藤 智和(名古屋大学大学院 生命農学研究科)

「アミノ酸・ビタミン B₆ 恒常性に関与する新奇ビタミン B₆ 結合タンパク質」

大森 勇門(大阪工業大学工学部)

「好熱菌 *Geobacillus kaustophilus* がもつ2つの NAD 依存性アラニン脱水素酵素の
機能解析とその生理的意義」

金子 一郎(徳島大学大学院医歯薬学研究部)

「生体内リン恒常性を維持するビタミン D 作用」

榎原 晶子(大阪府立大学 総合リハビリテーション学類)

「慢性疾患予防に必要な脂溶性ビタミン栄養状態」

田中 理恵子(国立成育医療研究センター研究所)

「ビタミン E の抗肥満作用～熱産生型脂肪細胞をターゲットとした新しいアプローチ～」

西川 美宇(富山県立大学工学部)

「ゲノム編集法により作出したビタミン D 関連遺伝子改変ラットの表現型比較解析
～ビタミン D 関連疾患の新規創薬ターゲット探索を目指して～」

芳賀 聡(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門)

「 α -トコフェロールに着眼した栄養生理学的アプローチによるウシ疾病予防戦略
～ One health：家畜の健全性と AMR 対策の両立～」

美藤 友博(鳥取大学農学部)

「線虫をモデル生物として用いたビタミン B₁₂ 欠乏症発症メカニズムの解明」

真野 寛生(富山県立大学工学部)

「分割型ルシフェラーゼ法を用いた VDR リガンドの高感度検出系の開発と
生体イメージングへの応用を目指して」

丸田 隆典(島根大学生物資源科学部)

「アスコルビン酸のレドックスサイクルと植物の光環境順応

～ようやく見えてきた酸化ストレス防御機構の頑健性とその分子基盤～」

谷津 智史(東京都健康長寿医療センター研究所)

「骨格筋におけるビタミンCの役割」

和氣 駿之(東北大学大学院工学研究科)

「フラボノイド生合成に進化的に保存されたカルコン合成酵素の活性制御機構と

フラボノイドメタボロン」

《シンポジウム》

第一部 「ビタミン・バイオフィクター研究の企業展開」 講演企業 (五十音順)

天野エンザイム株式会社

演者：西尾 享一

「血糖測定用酵素グルコース脱水酵素 —補酵素の違いによる変遷—」

株式会社カイノス

演者：山本 茂一

「補酵素を利用した高感度検出系の体外診断用医薬品への応用」

資生堂グローバルイノベーションセンター

演者：東條 洋介

「皮膚における遊離D-アミノ酸の機能と、新たなバイオフィクターとしての応用」

DSM 株式会社

演者：乾 泰地

「イノベーションとサステナビリティ」

ハウスウェルネスフーズ株式会社

演者：山本 憲朗

「世界に広がる穀類・穀物製品への栄養強化」

第二部 「大学発ベンチャーの展開」

中野 秀雄(名古屋大学大学院生命農学研究科)

「無細胞タンパク質合成系を用いたモノクローナル抗体ハイスループットスクリーニング技術の開発と社会実装」

黒野 剛(テクノ・エージェンツ株式会社)

「大学発ベンチャーを取り巻く環境と始めるに際しての留意点」

《市民公開シンポジウム》

「飽食時代の隠れ栄養失調：健康寿命に影響するビタミン・ミネラル不足」

日本人の食事摂取基準(2020年版)改定を機に、ビタミン・ミネラル等の「欠乏」ではない「不足」(隠れ栄養失調)と健康への影響についての話題を提供する。

講演者：石見 佳子(東京農業大学総合研究所)

香川 靖雄(女子栄養大学副学長)

栞原 晶子(大阪府立大学 総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻)

なおプログラムは今後変わる可能性があります。